



## 小さな出来事

ハタンバト バトツェツェグ  
KHATANBAT BATTSETSEG

今から1年前、私は日本に行くことができる喜びと、知らない国に住む不安な気持ちでいっぱいでした。日本での生活が始まり、様々な出来事を通して、私の日本人に対する考え方は徐々に変わっていきました。今では日本の生活になれ、新たな未来へ一歩ずつ進んでいます。モンゴルに住んでいた頃、私は日本人に対して、冷たいイメージを持っていました。経済大国だけれど、人々は自分のことしか考えず、困っている人を助けようとしないう人々と思っていました。又、日本人は感情を外に出さず、怒っているときも笑ったりする人たちと思っていました。私たちモンゴル人は自分の感情を表すことは当然と思っているため、日本人とは何を考えているかわからない人たちと思っていました。

しかし、日本での研修が始まると、工場の人たちは私たち研修生を優しく、温かく迎えてくれました。又、朝工場に行くとき、隣のおばさんは「いってらっしゃい」と毎朝挨拶してくれます。母と離れて暮らしている私にとって、おばさんの母のような挨拶は元気を与えてくれました。しかし、工場の人々に優しくされても、私の心の中では、日本人は何を考えているかわからないという思いは消えませんでした。ある日、私の疑念を打ち消す出来事がありました。日本に来て、2ヶ月たった頃私は上手に自転車に乗ることができず、ある日、立っている女性

にぶつかってしまいました。私も自転車から落ちてしまい、足をすりむきました。女性は持っていたかばんを落としました。私はまず「ごめんなさい」と謝りました。すると女性はかばんを拾って自分のハンカチを取り出して、私の足についている血を拭いてくれました。その女性は「痛いんですか、これから注意してください。」とってくれました。お姉さんが落ちたかばんからハンカチを取り出そうとしたとき、私はこの女性が携帯電話で警察を呼ぶかと思っていました。なぜなら、私は自分からぶつかったのに、すぐにお姉さんのかばんを拾わなかったからです。私は姉さんに対してまず、謝りましたが、自分のことしか考えてませんでした。お姉さんは私に文句を言わず、まず私の怪我のことを心配してくれたのです。私は自分が恥ずかしくなりました。そのとき初めて私は日本人の優しさがわかり感動して涙が出ました。このときの涙は足の痛みではなく、お姉さんの豊かな心を尊敬する涙でした。この小さな出来事は私に日本人を信頼し、理解する大きなきっかけとなりました。会社の人々の優しさを感じ、自分の未熟さを理解しました。それから会社での仕事が楽しくなりました。今私は日本社会の中で日本人と一緒に歩いているという事を実感しています。現在私は家族の為に仕送りをしています。モンゴルにいる頃は母から愛されるばかりの子供でした。今は自立した大人になったと思っています。私に人を信頼する大切さを教えてくれた日本に心から感謝しています。

- ・区分 技能実習生
- ・国籍 モンゴル
- ・職種 機械検査
- ・受入れ企業 柴田工機株式会社
- ・受入れ団体 椿トランステクノ協同組合